

特別研修

月例研究会 議事録 (12 月)

2007 年度第 7 回

報告題名 市民農園と直売所による地域活性化	
報告者 水澤長之 (所属分野) 経営情報学分野	日時 12月20日 3時~5時 場所 第8講義室
座長 大森	議事録担当者 平口
出席者 工藤、石井、冬木、石井、両角、伊藤、齋藤、長谷部、川島、木谷、澁谷、平口、鹿嶋、水澤、小山田、阿部、池田、鈴木、西橋、飯塚、大森、高嶋、デッフィ、徐	
報告要旨 遊休農地の有効利用と新規就農のきっかけづくりに、消費者と農家が一体となって活動し始めている地域が出てきた。農地や農業を守る為に、都市住民（消費者）も積極的に関わるという点で注目されている。その活動の一つに、遊休農地を市民農園として利用し、さらに研修を積んでステップアップして直売所に出荷できるようになるという仕組みが出てきた。ここに着目し、市民農園の魅力と課題を研究し、また成功している直売所を消費者から見た観点から分析し、複合したビジネスモデルの可能性を検討する。さらに、今日の有機農産物の人気もこの仕組みが有望である。今回は、市民農園の現状と課題と、伸びている直売所の分析から、それぞれの事例からビジネスモデルの根拠を探りたい。	
質疑・応答 澁谷 今回の報告で提示されたビジネスモデルについて、農家から農地を借りることになっているが、これはどのように市民農園と結びつくのか。 水澤 市民農園には、行政が農地を借りて貸し出すタイプや、市民団体等が農家から直接農地を借りるタイプなど、様々存在する。ここでは、担い手の高齢化等で農家が使わなくなった遊休農地を、農家に直接交渉して借り受けるという、農園利用方式で市民農園を行うことを想定している。 大森 遊休農地を借り受け、市民農園で生産を行うホームファーマー達は、規模が零細で生産性が低いことが予想される。そういったことはこの事業の運営の中で問題になることはないのか。 水澤 ホームファーマーの生産規模は、せいぜい趣味に毛が生えた程度のものであり、彼らが自分のために生産し、そこで余った農産物を直売所が買い受けるという仕組みを想定している。また、一般に有機農業は大規模では難しく、小規模の方が有利である。零細規模のホームファーマーが有機農業に取り組むことにより、規模の不利さは解消されると考えている。 木谷 提示されたビジネスモデルでは、市民農園とレストラン・直売所との関連が弱いように感じる。この関連を強化するために、さらに教育の観点を入れてはどうか。たとえば、小学生に実際に農作業をさせ、そこで生産した農産物をレストランで食べる、といった仕組みである。 水澤 市民農園のなかでも、福祉農園を行う例がある。また学校と市民農園が連携する例も存在する。今回提案された教育の要素についても、今後検討してみたい。	
長谷部 提示されたビジネスモデルのなかに、市民農園とレストランが一緒に含まれる理由をもう少し	

説明していただきたい。

水澤 市民農園と直売所、レストランの3者を結びつけた例はこれまでにない。今までにない取り組みを提案したいということが一つの理由である。また、そこに有機農業を加えれば、さらに新規性が増す。

長谷部 3者を一体的に考えるのであれば、市民農園という要素が、直売所やレストランを利用する購買層にとってどういう魅力になるのか、が大事であると思われるので、今後検討して欲しい。

石井 今回提示されたビジネスモデルの可能性を探る上で、対象となる事例はあるのか。

水澤 市民農園、直売所、レストランの3つを組み合わせた事例はない。ただ3つのうち2つを組み合わせた例は、県内でもいくつ存在する（プチ富田ファーム、有機栽培市民農園全国ネットワーク等）。このあたりをもう少し調べてみたい。

石井 海外の有機農業の事例を見ると、消費者が生産者と入れ替わるようなケースが見られる。また、市民農園に取り組む消費者は有機農業を実践するケースが多い。そういったことを含めると、今回提示されたビジネスモデルは、今後、実現可能性が高まると思われる。また遊休農地の有効利用という観点からも、ひとつのブレークスルーになるのではないか。今後の研究の進展に期待する。

冬木 1つのまちづくりの提案として、提示されたビジネスモデルは非常に面白い。ただしこうした事業は、現場で全体を仕切る人がいないとなかなか実現が難しい。この点についても、先進事例調査の中で意識して見てもらいたい。あと、相模原の青空農園の事例は、アメリカの CSA(Community Supported Agriculture)に似ている。CSA では消費者が出資ないしは会費によって農園を維持する取り組みが行われている。さらにその農園でとれた農産物は出資者に販売されたり、ファーマーズマーケットで販売されたりと多様な販売方法がとられている。こうした海外事例についても参考になると思うので、ぜひ調査してもらいたい。